

2024年度 福井県立大学研究シーズ集を
発行しました

本学教員の研究シーズをまとめた冊子「2024年度福井県立大学研究シーズ集」を発行しました。商品開発など地域振興に活用できそうな研究やカーボンニュートラルなど社会課題解決のための研究まで、多様な本学教員の研究活動を分かりやすく掲載しています。共同研究や商品開発などのテーマ探しにご活用ください!



文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム
認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました!

本学の教育プログラムが文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました。この「応用基礎レベル」を大学等单位で認定されたのは、県内の大学等で初となります。また、全国の公立大学(101大学)でも11大学のみで、北陸3県の公立大学でも初となります。



※認定の有効期限:
令和11年3月31日まで

同窓会「甲子会分会」から寄付金をいただきました

本学同窓会「甲子会分会」から設立100周年を記念して100万円の寄付をいただきました。



10月12日(土)に永平寺キャンパスで贈呈式が行われ、甲子会分会の木村会長から岩崎学長に目録が贈呈されました。この寄付金はあわらキャンパスに建設予定の農産物県産化棟(仮称)の備品購入のために使用させていただきます。

学位記授与式のおしらせ

- 2025年3月21日(金)
- 永平寺キャンパス講堂



※今後のお知らせは本学ホームページに掲載します。
☎ 就職・生活支援課 TEL.0776-61-6000

本学関係者の著書紹介

フランス会計の歴史と制度:国際的統合化への道筋

経済学部 徳前 元信 教授 分担執筆
(白桃書房、2024)

国際会計研究学会の研究グループの集大成である。その研究の歴史を辿りながら、国際化への対応を示唆する。国際会計の研究者に欠かせない文献。徳前教授が第1章「17世紀から19世紀までのフランス会計学研究的意義」で会計と法律の初めての交差と、その結びつきの特殊性を論述した。



次世代管理会計の進展

経済学部 木下 和久 准教授 共著
(中央経済社、2024)

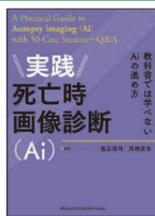
日本企業の管理会計はどう実践されているのか、そして、どう理論化し応用できるのか。日本発の管理会計を探求し、日本企業における優れた管理会計実践の理論化を目指す研究成果を提示する一冊。



実践死亡時画像診断(Ai)-教科書では学べないAiの進め方-

看護福祉学部 法木 左近 教授 分担執筆
(メディカル・サイエンス・インターナショナル、2024)

死亡時画像診断(Ai:オートプシー・イメージング)とは、ご遺体をCTやMRI撮影することにより死因を究明したり、病態を明らかにしたりすることである。50症例について、画像診断、病理学、法医学の専門家が独自の視点から解説している。また、Aiに関するよくある質問70個について回答している。



実践につながる道德教育論

学術教養センター 園崎 大恩 准教授 編著(北樹出版、2024)

道德を「教える」ことはできるのか?「考え・議論する道德」とはどういう教育実践なのか?そもそも道德教育において教員に何が出来るのか?時代の大きな変わり目において、ものごとを抜本的にとらえ直し、子どもと向き合うための1冊。



【新版】アイスランド サガ

学術教養センター 松本 涼 准教授 監修(新潮社、2024)

1979年刊・谷口幸男訳「アイスランド サガ」の待望の復刊。中世の散文物語「サガ」の内、珠玉の6編を収める。英雄ジークフリート伝説に関連する「ヴォルズンガサガ」や、強い女性が活躍する「ラックサー谷の人びとのサガ」が特におすすめ。



新任教員の紹介



看護福祉学部 社会福祉学科
教授 梅谷 進康 うめたに のぶやす
(専門分野) 高齢者福祉、ソーシャルワーク
(担当科目) 高齢者福祉論、ソーシャルワーク論、
ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習指導
高齢者・家族等へのソーシャルワーク、地域包括
ケアを研究しています。教育、研究、地域・社会貢
献をバランスよく行いたいと考えています。

FPU NEWS

Fukui Prefectural University



福井県立大学
Fukui Prefectural University

No.124

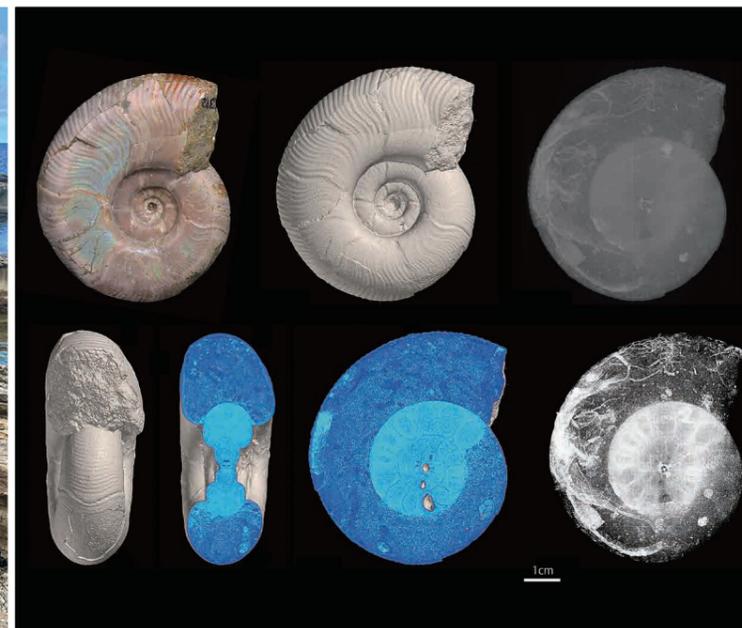
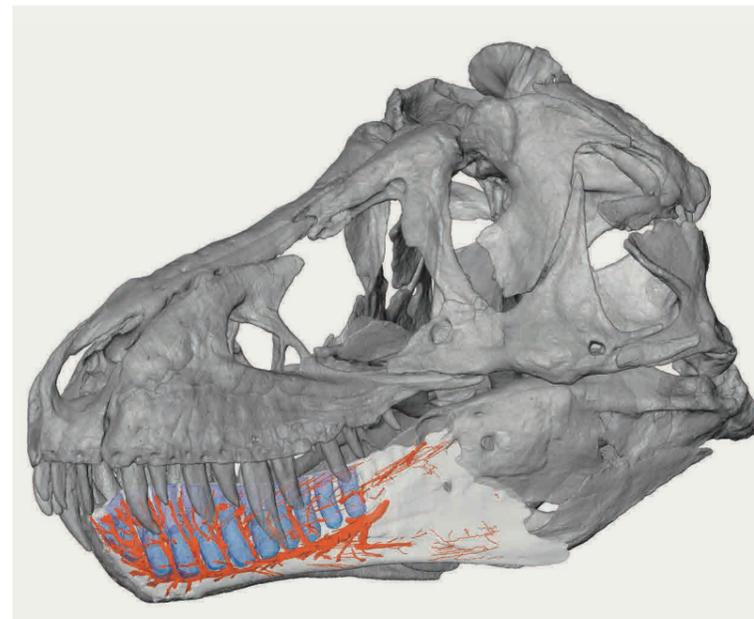
2024 冬号



2025年春、恐竜学部誕生!



FPU NEWSについて
ご意見・ご要望をお寄せください。
抽選で県大グッズプレゼント!



2025年4月、福井県立大学に日本初の恐竜学部 恐竜・地質学科が誕生します。



太古から学ぶ、未来

2025年春、恐竜学部誕生!

2024年8月、文部科学大臣の認可を受け、2025年4月に福井県立大学に日本初の恐竜学部 恐竜・地質学科が誕生することが決定しました。福井県の豊かな自然を活かし、恐竜や地質・古環境学などについて学べる県大の5番目の新学部、恐竜学部についてご紹介します!



恐竜学部 学部長予定者 西弘嗣 教授

地球温暖化による自然災害など現代社会の地球科学諸問題は、地球史において繰り返し起こっている自然現象です。地球の歴史を知ることは、我々の未来を予測することにつながり、人類社会の持続性に関係しています。

福井県は、30年以上にわたり恐竜化石発掘・研究を推進し、恐竜時代の環境の解明を行っています。さらに水月湖の年縞や東尋坊など日本列島形成史を物語る地質遺産もあり、地球の歴史を知ることのできる重要な場所です。このような恵まれた環境を活かし、恐竜を含む古生物や地質学を学ぶことができる「恐竜学部」を設置します。



特色あるカリキュラム

01 福井県立恐竜博物館との連携



恐竜学部設置に伴い開設予定の勝山キャンパスは恐竜博物館に隣接するため、施設の相互利用など物的資源の連携や研究員・学芸員による講義や助言等の人的資源の共有を行い、博物館と一体化した新しい教育・研究システムを目指します。

02 フィールド科学の実践



古生物学や地質学を含む地球科学では、地層や岩石に記録されている情報を現場で読み解き、論理的に考察しなければならないため、フィールドワークにおける現場での観察力や判断力を重視します。福井県には、古生代～新生代までの地層や岩石が分布しており、身近な自然の中でのフィールドワークが可能です。また、県内だけでなく県外へも視野を広げ、情報収集スキルや調査能力を身に付けます。

03 デジタル分野を活用した新分野の展開



恐竜学部では、これまで用いられてきた古生物および地質学の調査手法による研究を行うだけではなく、最新のデジタル技術を活用し、古生物・地質学をさらに発展させていきます。大型CT撮影装置をはじめとした先進機器を使用して、多様な形や大きさの化石や研究試料の性状をデジタル化し、それらのデータを活用した新しい教育・研究を行います。

新学部の先生に聞いてみよう!

恐竜学部の学び

恐竜・古生物コース

柴田 正輝 教授

Q.先生の研究について教えてください

—恐竜、なかでも草食恐竜のフクイサウルスなどのイグアノドン類を中心に研究しています。特にアジア地域における多様性や後期白亜紀に起こったアジアの恐竜の北米への進出に興味を持っています。また、福井県で発見された恐竜には、他では見られないユニークな特徴を持っている種もいます。恐竜時代の福井には、他の地域にはない未知の環境的要因があったのかもしれませんが。太古の福井の様子を解明することに興味を持っています。

Q.恐竜・古生物コースではどのようなことを学べますか

—恐竜を含む古生物全般を研究するための知識やスキルを身に付けます。脊椎動物の進化や解剖学的知識を深め、化石となった生物やその生態系を科学的に解釈できるように学修します。また、デジタル技術を利用し、化石の新たな可能性を探ります。



地質・古環境コース

安藤 寿男 茨城大学名誉教授 (恐竜学部教員予定者)

Q.先生の研究について教えてください

—「地球科学者になりたい」という少年時代の夢が叶って、地質学者、古生物学者として、地層や化石から読みとる過去の地球環境やその変遷、生物の進化や生態系についての研究を進めています。国内外の共同研究や、学生たちとの研究で、地質時代は中生代三畳紀から現在まで、地域はモンゴルゴビ砂漠、米ニュージャージー沖、北海道から茨城県を中心とする日本各地、化石は二枚貝(特にカキ類)、アンモナイトなどを研究しています。

Q.地質・古環境コースではどのようなことを学べますか

—恐竜を産する中生代の地層を中心に、地層の形成過程を堆積学的な手法から明らかにし、堆積環境や堆積様式の復元を目指します。化石が含まれる場合、化石の形成過程から化石生物の生態情報を抽出し、その生物の実態を解明します。



他学部生も受けられる!

恐竜学部の授業

恐竜学部以外の在学生の皆さんも、一般教育科目で恐竜関係の授業を受講することができます。来年から開講される予定の授業の一部をご紹介します。

脊椎動物の進化

46億年前に地球が誕生してから、地球上には様々な生命が生まれ出されてきました。本授業では、5億年以上にわたる脊椎動物の進化の歴史を分類群ごとに学習し、生物の多様性そして進化の過程について理解します。



地球史入門

宇宙の形成から、太陽系、そして地球を含む諸星がどのように形成されたのかを時系列に沿って学習します。また、地球形成後の大気、海洋、大陸の変遷についても学習し、現在の地球環境の成り立ちや、気候変動について理解します。



地球環境学概論

地球環境に関する諸問題は、現代を生きる私たちにとって避けることのできない問題です。本授業では、地球環境の地質学的変遷やシステムについて学習することで、地球環境問題の実態と原因についての理解を深めます。



恐竜学

映画の中の恐竜像と科学的根拠に基づく最新の恐竜像とを比較することで、実際に生きていた生物としての恐竜の姿を学習します。そのほかにも、古生物学の基礎知識や、恐竜の進化に深く関係する地質学的なイベントの学習を通して、古生物学全般に興味を深められる内容になっています。



恐竜学研究所大学院生の研究紹介

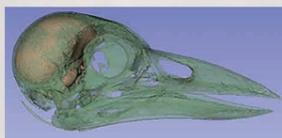
ひと足先に恐竜学研究所で学ぶ大学院生の研究内容をご紹介します。

先輩に聞いてみよう!

成長による鳥類の脳の形態変化

生物資源学研究所 博士後期課程1年 大西 侑生さん

鳥類は、孵化後に親の保護を必要とする晩成鳥と、そうでない早成鳥に区分できます。その違いは脳の成長様式にも見られ、早成鳥の脳は孵化前に成鳥と同程度に発達するのに対して、晩成鳥の脳は孵化後に著しく発達します。しかし、これまで成長に伴う脳の三次元形態的变化は、早成鳥でのみ検証され、晩成鳥では不明なままでした。そこで私は、CTスキャナを用いて晩成鳥の脳を解析し、成長に伴う形態変化について検証しました。その結果から、晩成鳥には成鳥の生態と深くかかわる機能を司る領域を特異的に発達させる柔軟性があると結論付けました。

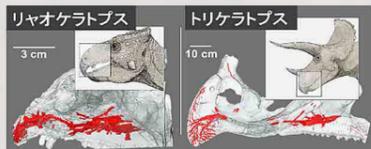


カラスの頭の3Dモデル

角竜類恐竜の吻部血管神経管形態について

生物資源学研究所 博士後期課程1年 坂根 広太さん

恐竜の頭骨をCTスキャンすることで、血管や神経の収まっていた管である血管神経管を識別し、恐竜の感覚機能や軟組織に関する情報を得ることができます。私は角竜類恐竜の頭骨についてCT解析を行い、初めてその血管神経管形態を明らかにしました。解析の結果、角質のクチバシと密接に関わる血管神経管が吻部に存在することや、基盤的な種から派生的な種にかけてその血管神経管形態が大きく変化していたことなどが判明しました。これにより、化石に残らない角質のクチバシ形態の復元や、角竜類の進化に新たな視点から迫ることが可能となりました。



CTスキャン画像から復元した、リャオケラトプスとトリケラトプスにおける吻部血管神経管

恐竜博物館に隣接!

勝山キャンパス (2026年供用開始予定) の紹介



恐竜学部の学生が2年次から学びの拠点とする勝山キャンパスは、恐竜博物館に隣接します。学部棟の設計は隈研吾建築都市設計事務所が担当し、外壁のデザインは恐竜学部につながる地層をイメージしたものになっています。

恐竜学部X 中の人インタビュー //

Q. 恐竜学部認可報告のツイートが、200万人近い方の目に触れ話題となりましたが、投稿する際に工夫していることは何ですか?

一恐竜学部の雰囲気が伝わるような投稿を心がけています。最近では、本学部に対する皆様のポストをリサーチしてから投稿内容を考えることもあります。



恐竜学部X担当者 1さん



認可報告のポスト。200万回近く閲覧され、いいね数も3.5万と注目を集めました。

恐竜学部、恐竜研究の最新情報が満載! ぜひフォローお願いします!



第32回

白樺祭

さわやかな秋晴れの中、第32回白樺祭を開催しました! 来場した皆さんは、サークルや学科、地域の皆さんによるステージ発表や企画展示、模擬店を楽しんでいました。学生の皆さんにお寄せいただいた写真を中心に紹介します!

小浜キャンパス

10/5(土)・6(日)

開催テーマ

「KAIEN」

小浜キャンパスならではの海にまつわる企画がもりだくさん!



地域の方によるマクロ解体ショー



油絵部の展示



緑日イベント内「射的」



遊びに来てくれたさばトラななちゃん



子ども達に大人気! タッチプール



エンディング お菓子まき!

永平寺キャンパス

10/12(土)・13(日)

開催テーマ

「Flourish」

サークル、学科の模擬店や展示、地元企業とのコラボ企画を楽しみました!



YOLOサークルの模擬店 揚げ春巻き、ピーナッツ餅などを販売!



アカベラ部のステージ発表



地元企業とビーチクリーンサークルのコラボでお魚釣りゲーム



遊びに来てくれたはびりゅう



たくさんの模擬店で賑わいました!



エンディング 大抽選会!

あわらキャンパス

11/2(土)

収穫祭

創造農学科の学生の成果発表の一環として収穫祭を開催しました!



農業インターンシップ報告会



学生による演奏を楽しみました!

ブラジル福井県文化協会・コロナ・ピニャール文化体育協会と包括連携協定を締結



9月1日(日)にブラジル・サンパウロ市で開催されたブラジル福井県文化協会創立70周年記念式典で、本学とブラジル福井県文化協会(福井県人会)、コロナ・ピニャール文化体育協会(福井村)との包括連携協定を締結しました。今後、福井県人会、福井村と本学学生の交流などを推進するとともに、日本とブラジル連邦共和国の異なる文化の相互理解を進めていきます。

先端増養殖科学科「養殖インターンシップinフィリピン」実施



9月1日(日)～9月13日(金)に、先端増養殖科学科の学生13名がフィリピンで水産増養殖に係る実習と講義を受講しました。世界的に成長産業である水産養殖ですが、とりわけフィリピンは最も成長著しい地域の一つです。

学生は、東南アジア漁業開発センター養殖部局(SEAFDEC AQD)における講義や実習、水産増養殖施設の見学等を行い、最終日には受講内容について英語でプレゼンを行いました。

「昭和57年会による落語会in福井県立大学」開催



10月4日(金)に大学生向けの伝統芸能鑑賞会として、落語会が本学講堂で開催されました。「昭和57年会」は、同じ年に生まれた5人の落語家からなるユニットで、笑福亭べ瓶さん、三遊亭志う歌さん、三遊亭好の助さん、立川小春志さん、春風亭昇也さんの5人が落語界の異なる五派閥から集結し各地で落語会を開催しています。学生が楽しみながら普段なかなか触れられない落語への興味を深める貴重な機会となりました。

大韓民国 大邱政策研究院と包括連携協定を締結



10月30日(水)に本学と韓国の大邱政策研究院は包括連携協定を締結しました。この協定により、シンポジウム等の共同開催や講師の相互派遣を通して地域の諸課題に応える地域研究を推進するとともに、研究プロジェクトの実施による情報提供や人材交流を通じて、地域の課題に応えるプロフェッショナル人材の育成・交流を進めていきます。

甲子会創立100周年記念講演会「九頭竜川の教え」を開催



10月12日(土)、本学永平寺キャンパスにおいて、本学第3代学長を務めた祖田修氏による講演「九頭竜川の教え」が開催されました。

講演では、祖田元学長の人生観を交え、日本、ドイツの地域政策を比較しながら、これからの日本や福井、そして福井県立大学のあり方についてお話いただきました。

映画「雪の花 一ともに在りて」に、看護福祉学部法木教授が医療監修、本学学生が出演

本学看護福祉学部法木左近教授が、映画「雪の花 一ともに在りて」の医療監修を行い、さらにエキストラ出演しました。また、経営学科2年の大野天望呈さんも出演しました。

同作は、福井藩の町医者 笠原良策が天然痘から人々を救うため種痘の普及に尽力した物語「雪の花」(吉村昭氏原作「雪の花」)を映画化したもので、福井県内でも撮影が行われました。2025年1月24日(金)に全国公開されます。ぜひご覧ください!



©2025 映画「雪の花」製作委員会

映画「雪の花 一ともに在りて」公式ホームページはこちら



『福井県立大学つぐみ賞』受賞者紹介

学術研究や課外活動等で活躍した学生・団体を表彰する「つぐみ賞」受賞者の皆さんです。

先端増養殖科学科2年 眞壁 喜一郎さん

「福井県ワクワクチャレンジプランコンテスト2024」にて、「学生が大学で得た専門知識を活用して地域の空き施設を改修した水族館設立」をプレゼンし、見事採択されました!クラウドファンディングでも資金を集め、小浜市内の町屋に、県大で増養殖研究が行われている魚や小浜近辺に生息する魚を集めた水族館設立を目指して準備を進めています。



経済学科2年 山本 一輝さん

経済学科3年 大沢 萌衣さん 奥 柚葉さん、定兼 萌子さん 渡邊 碧以さん

経営学科3年 長谷川 知輝さん 水江 康稀さん



学術教養センター國崎大恩准教授と共に、小浜市と協働して、小浜の歴史と文化を学ぶ学習ツールを作成しました。学習ツールは小浜市教育委員会に贈呈し、小浜市内の全小中学校に配付され、ふるさと教育や教員の初任者研修において活用されています。

海洋生物資源学科2年 大原 朋弥さん

海洋生物資源学科3年 樋園 千波さん

海洋生物資源学科2年 川崎 寿恵さん

海洋生物資源学科3年 小林 祐斗さん

おばまし芸術祭(主催:小浜市文化協会)に油絵部の活動で作成した油絵作品を出展し、川崎さんは福井新聞社賞、小林さんは奨励賞を受賞しました!



作品名「23:44」川崎 寿恵さん作

作品名「洋梨」小林 祐斗さん作

生物資源学研究所 生物資源学専攻 博士前期課程1年 鵜飼 優葉さん 兵渡 友誉さん



高知県で開催された日本遺伝学会第96回大会において、鵜飼さんは「シロイヌナズナ染色体部分重複変異体のエピゲノム変化」、兵渡さんは「シロイヌナズナの発達ステージに依存したセントロメア領域の構造変化」についてポスター発表し、Young Best Poster賞を受賞しました。

生物資源学研究所 生物資源学専攻 博士後期課程1年 芝 日菜子さん



広島県で開催された日本育種学会第146回講演会において、「非破壊酸素イメージング技術により見えてきたオオムギの湿害発生過程における成長と根圏酸化の関連性」について口頭発表し、優秀発表賞を受賞しました。

生物資源学科1年 岩崎 日向さん 小響 駿人さん 中森 智紀さん 山口 正人さん

地域経済研究所青木和人教授、福井新聞社と共に、災害記憶の風化が課題となっている平成16年福井豪雨災害の被害者証言等の記憶を、若い世代にも閲覧しやすいデジタルアーカイブを作成してインターネット上に公開し、福井豪雨災害の記憶を次世代に繋ぐ活動を行いました!



デジタルアーカイブは右記QRコードより閲覧できます。



学生が聞いた「福井豪雨」の証言



福井豪雨の報道写真集



おめでとうございます!